

会 議 録

会議の名称	まち・ひと・しごと創生総合戦略等検討委員会（第6回）
事務局	企画財政部企画政策課企画政策係
開催日時	平成28年3月4日（金）午後6時00分～午後8時10分
開催場所	西庁舎2階第五会議室
出席者	委員長 渡邊 嘉二郎 委員 副委員長 本間 紀行 委員 委員 田村 裕一 委員 飯田 千洋 委員 川合 祐之 委員 北島 彩子 委員 小宮 貴大 委員 鳴海 多恵子 委員
欠席者	河野 律子 委員
事務局	企画政策課長 水落 俊也 企画政策課長補佐 中田 陽介 企画政策課係長 廣田 豊之 企画政策課主任 津田 理恵 株式会社創建 氏原 茂将
傍聴の可否	Ⓐ 一部不可 不可
傍聴者数	0人
【会議次第】 1 小金井市人口ビジョン（案）及び小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）に対する意見及び検討結果等について (1) パブリックコメント、市議会各会派からの意見 【資料17・18・19】 (2) 市民フォーラム等における主な意見 【資料20】 2 その他（意見交換、今後の予定等）	

【会議結果】

1 小金井市人口ビジョン（案）及び小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）に対する意見及び検討結果等について

(1) パブリックコメント、市議会各会派からの意見

（事務局から説明《資料No.17》）

（パブリックコメントの実施結果）

- ・意見の募集期間は1月22日から2月21日まで。
- ・電子メールで1人から8件の意見をいただいた。
- ・人口ビジョン関係が1件、総合戦略関係が6件、その他が1件。
- ・意見・検討結果の内容について、資料に沿って説明した。

（主な意見）

・No.6のホームページの所管を移すべきと言う意見に対し、納得を得られる回答か疑問がある。

→市内では移管することを考えているようだが、現在はホームページを更改したばかりなので、一定の運用期間を経た上で検討していくため、このような書き方になっている。

・ある程度具体的に示してもよいのではないか。

→了解した。

（事務局から説明《資料No.18》）

（市議会各会派からの意見）

- ・意見の募集期間は1月22日から2月22日まで。
- ・5会派から29件の意見をいただいた。
- ・人口ビジョン関係が5件、総合戦略関係が13件、推進体制が6件、その他が5件。

・総合戦略の策定推進に当たっては議会においても十分な審議を行って意見の反映に努めるということが国からも望まれているところで、2月15日に市議会全員協議会を開催し、そこで説明した上で意見を出していただいた。

・意見・検討結果の内容について、資料に沿って説明した。

（主な意見）

・本件は一般公開されるものか。

→本日のまち・ひと・しごと創生総合戦略等検討委員会の資料、市議会の報告資料として公開される。

・議会とまち・ひと・しごと創生総合戦略等検討委員会が連携するには、長期的な視野で各々の棲み分けを考える必要がある。議会と委員会の議論が異なった場合に、どう整理するかを考えておいたほうがよい。

・No.4について。住民を選ぶような書き方だが、だれでも受け入れ、住んでいるうちに定着できるような小金井市であってほしい。

・ N o . 9 について。追記すべきは「就業機会の確保」ではなく「就業機会の確保の支援」ではないか。確保するのは本人であって、行政は支援するかぎりだろう。

→関係課と調整する。

・ N o . 9 の大学生の家賃補助は興味深い。

→家賃補助は23区では行っている自治体はあるが、多摩地域の自治体では行われていない。財政的な課題もあると考えられる。

・家賃補助を受けた大学生は一定期間定住するという条件をつければ、ギブアンドテイクになって興味深いと思う。

(2) 市民フォーラム等における主な意見

(事務局から説明《資料No.20》)

(市民フォーラム等における主な意見)

・ 2月14日(日)午後2時～午後4時に市民フォーラムを開催した。

・ 15名が参加。40歳代が1名、50歳代が1名、60歳以上が13名。

・基本目標ごとに3つのブースに分け、それぞれ説明を行い、意見交換した。それを3セット行い、最後に全体共有した。

・市民フォーラムにおける主な意見について、資料に沿って説明した。

・2月15日(月)に行われた市議会全員協議会における主な意見について、資料に沿って説明した。

(主な意見)

・資料の取扱いはどう考えているのか。

→本日のまち・ひと・しごと創生総合戦略等検討委員会の資料として公開する。

・市民フォーラムと全員協議会の意見について回答はしないのか。

→市民フォーラムでの意見は、おおむね総合戦略の中に施策として含まれていると認識している。新たなご意見等、具体的に考える必要のあるものについては、関係課と共有を図っていく。全員協議会の意見はその場で回答している。また、資料N o . 1 8 の市議会各会派からの意見の中で回答しているものもある。

・2③について、K P I の目標設定の「維持」が前向きでないという質問には、どのように回答したのか。

→この質問は、K P I を設定するプロセスに関する質問だった。K P I は、数値化ができるもので、かつ毎年数値を確認できなければならない。長期総合計画に掲載されている指標の中から、企画政策課で抽出し、各課に照会して、また、まち・ひと・しごと創生総合戦略等検討委員会からもご意見をいただきながら作り上げたと説明した。

・人口減少が予測され、先が見えない世の中で、「維持」が前向きである場合もあると思う。「維持」は必ずしも後ろ向きだとは言えない。

- ・市民フォーラムでもその意見に近い意見があった。事業が多くなり、市の負担が増えるのではないかと心配する声もあった。
- ・市民フォーラムの意見はとても貴重であると思う。今後、どこかに方向性を決める際、参考になると思う。

2 その他（意見交換、今後の予定等）

（子育て世代の意見の吸い上げ）

- ・若い人たちに自主的に動いてもらうことはむずかしい。勉強もあり、楽しいこともたくさんある。多世代交流はよいことだが、高校生が自発的に高齢者と触れ合うだろうか。就職につながるのであれば別だが、大学や高校で半強制的に機会をもった方がよいと思う。そのうちに楽しいと感じて、自発的にやる人も出てくるだろう。
- ・学校は、子どもにとって教育的だと感じれば動いてくれるものだ。ポスターを掲示板に貼るのもよいが、学生は掲示板もあまり見ないと思うので、校長会などで説明してはどうか。
- ・他のイベントに組み合わせて、市民フォーラムを実施してはどうか。子どもが遊ぶイベントであれば、そこに子どもを預けている親が参加することもできるだろう。市民フォーラムに参加者が少ないのは、市民にとってこのことが自分事になっていないからだと思う。他のイベントと組み合わせ、市民の意識を向けていくことが大事だと思う。
- ・青少年の科学の祭典なども、組み合わせることができるだろう。意識を向ける機会は、さまざまなイベントでつくれるのではないか。
- ・委員会資料のような文字ばかりのものではなく、ビジュアル的に分かりやすい資料があるとよいと思う。また、「いいね」ボタンを押すように、シールを貼るなど、かんたんに意思表示ができるとうよい。
- ・意見をいうこともなかなか難しい。ただ、意見をいうのではなく、○・×を示すことはできる。何かの機会に集まった人たちに、○・×で答えられる質問をしてみて、その反応をみるという手法をやってみてはどうか。そういう楽しさがないと、人は食いつかない。数字でしか表せないが、広く正直な意見を得られる。
- ・多世代では意見がいいにくいかもしれないので、若い人だけ集めてはどうか。たとえば学校のクラスで話し合ってもらうと、意見を得られるのではないか。
- ・PTAは比較的若い世代が集まる場なので、活用してはどうか。行政のイベントに子どもを参加させることから始めて、その輪のなかで議論を広げていくというプロセスもあるだろう。

（推進体制や方法等について）

- ・今回のまち・ひと・しごと創生総合戦略等検討委員会は、計画書としてまとめなければならないので仕方ないが、いろいろと市が準備しすぎたと思う。準備しないで、自由に多様な意見、枠の外にある意見やアイデアを引き出し、それら意見と計画の整合性を図るということが必要かなと思う。
- ・議会と連携するのであれば、議会と委員会の目的の違いを明確にするべきだろう。今後どう進めたらよいかを検討していただきたい。
- ・市民フォーラムではよい意見もたくさん得られたので、長期的に市民フォーラムみたいなものを計画してもよいと思う。そこで、市民がいろいろなことを考えて、盛り上げるというような進め方もある。
- ・市民フォーラムでは、よい意見が多く、市民の力を感じた。ただ、同じやり方では参加者が固定してしまう。参加対象を替えながら実施できると、多様な意見が得られるのではないか。
- ・学生が市をどれくらい知っているのか気になっている。学芸大生は国分寺駅を利用することが多く、小金井市への認識が少ないかもしれない。入学式で配布する資料の中に市を紹介するパンフレット等を入れれば、新しい生活のスタートとして新鮮な思いで読み、小金井市に関心を持つだろう。

(委員より感想等)

- ・商工会や観光協会で、夜明け市場や、小金井名物市、ちびっこフェスタ、こがねい阿波踊り、さくらまつり等に取り組んでいるが、市民が交流できる場を作っていければと思う。イベントを通して交流を図りながら市民が気持ちよく生活し、小金井市に定着してもらえようことを意識しながらやっていきたい。不動産業を営んでいるため、市民の定着率を上げるために意識しながら仕事をしていかななくてはいけない。また、起業家をさらに飛躍させるような場を作っていきたい。
- ・今のままだと、どれも網羅しているんだけど、どれも中途半端で終わるところだと思うので、どこかに特化しなければならない。痛みはあると思うが、覚悟して取捨選択しなければいけないのだと思う。なるべく広い形で意見を聴取していかなければならないと思う。
- ・定期的に小金井市のことを考える機会があり、小金井市に愛着が湧いた。友人等に「小金井市っていいよ」と自信を持って言えるようになった。資料を作ってもらった上で自由に話ができてよかった。
- ・もともと小金井市が好きで、市のことを知りたいと思って参加した。参加して、以前より小金井市が好きになった。多分そういう市民を増やしていけばより定着率も上がるし、例えば転出して引越先で小金井市をプロモーションするような人が増える。今住んでいる市民が小金井市のことをよりよく知って、より小金井市のことを好きになれば、よいサイクルがまわる。
- ・金融機関として、多摩地域の20程度の自治体の総合戦略の審議会に参加している。これから、より個性を出していかないと、人口減少等に対応でき

ないんじゃないかと感じている。小金井市の魅力は、まちが好きな人が多かったり、魅力的なイベントなど、そういう資源があるので、それらをうまくつなぐなど、俯瞰して見られるとよい。あとは、ネットワークを持っている人たちを活用すると、そこから芋づる式にいろんな人が集まってきたり、多くのお客さんが来るお店でやってみるとかという形で、必ずしも市がやるというよりは、もっといろんな人の力を借りて、いろんところで議論してもらったほうが皆さんも参加しやすいし、波及効果もあると感じた。

・小金井はこうなんだというところを出していけるようなことを目指してほしい。これからも自分や仲間がこういう審議会等に参加するなどして、こういうお話をしていきたい。積極的な市民の方が多く、小金井は、いいところだよと私もPRしたい。

・私は仕事の関係で長らく小金井市に来ていたが、市を身近に感じたのは、この10年足らずだった。市長さんに会う機会があったり、子ども達と接することで小金井市を意識するようになった。

今回、大学とのかかわりというのがかなり話題になったが、もしかすると大学の中では小金井市に対して理解していない学生や教員が多いのかもしれない、と感じている。今後は、さらに大学からも市とのつながりを強めていく必要があると、会議を通して感じた。私も、小金井市が大学という財産を活用するに当たって、何かのお手伝いできればと思っている。私自身、小金井市への理解を深めることができ、有意義で、しかも楽しい委員会だった。

・総合戦略は総花的に書かれているが、どこか重点的にやっていかないと、特色が出ないだろうと思う。

その一例として、ふるさと納税は、例えばイベントなど、こういうことをやりたいので寄附を集めるというかたちにすると、こんなことをやるんだったら寄附しようかなという気になると思う。

～以上で会議終了～